

第32期新潟市社会教育委員会議

実施年月日	第4回 平成29年1月18日(月) 実施		
会 場	クロスパルにいがた4階 405講座室	傍聴人	0人
会 議 内 容	1. 開会 2. 報告事項 (1) 「ふじみ子ども食堂」視察 参加報告 3. 協議事項 (1) 第32期社会教育委員会議建議『「学びの循環」による人づくり』について (2) 新潟市教育委員との懇談会について 4. 事例研究 (1) 生涯学習センターボランティアとの懇談 5. その他 6. 閉会		
出 席 者	【社会教育委員】 伊井 昭夫 小川 崇 神林 むつみ 雲尾 周 齊川 豊 田村 祐一 南雲 保子 本間 利恵 横坂 幸子 渡邊 喜夫 【事務局】 長浜教育次長 三保中央図書館長 五十嵐中央公民館長 小林中央図書館企画管理課長 松田中央図書館サービス課長 枝並地域教育推進課長補佐 井関生涯学習センター所長 生涯学習センター(鈴木次長補佐、井浦係長、野坂主査、井部主事) 中央公民館(玉木主事)		
会 議 録			
1. 開会 (事務局) ただいまより第32期新潟市社会教育会議 第4回を開催いたします。 本日は、鶴巻委員から欠席のご連絡をいただいております。 なお、新潟市社会教育委員会議運営規則第9条に定める開催に必要な人数を満たしていることをご報告いたします。 また、本日は北京師範大学珠海分校教育学部副学部長の張軍先生と通訳の李新斌様が参観されますので、よろしくお願いいたします。 当会議につきましては、会議録作成の必要がございますので、録音と写真撮影をさせていただきますことをご了承ください。 開会にあたりまして、長浜教育次長よりごあいさつを申し上げます。 (長浜教育次長) 皆様こんにちは。今日は天気は山場を越えてほっとしているところですが、まだまだ足下の悪い中お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。 今期は32期ということで始めていただきまして、建議のテーマを「学びの循環」と決めていただきました。最初、雲尾議長からの講義からスタートをして、いろいろなところを視察いただいたり、あるいは社会教育関係の団体の皆様と意見交換していただく中で、それぞれのご経験と重ね合わせて思うところがいろいろ出てきているのではないかと思います。これから皆さん方で議論を深めていただき、「学びの循環」ということで、新潟市におけるこれからの生涯学習、社会教育をどのような方向で循環させていけばいいかというご提言についてご議論いただく段階に移ってくるのではないかと思います。今日はそのスタートになると思っております。今まで以上にご苦労をかけるところはあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。			

2. 報告事項

(1) 「ふじみ子ども食堂」視察 参加報告

(雲尾議長)

昨年11月24日と12月8日に「ふじみ子ども食堂」の視察に行ってくださいましたので、参加された委員の方より報告をお伺いしたいと思います。まず、事務局より概要の報告をお願いいたします。

(生涯学習センター主事)

「ふじみ子ども食堂」の視察について概要を報告させていただきます。

視察に行きましたのは11月24日と12月8日です。会場は東区の藤見団地集会所です。運営はNPO法人「にいがた子育てステーション」が行っています。懇談では、この「にいがた子育てステーション」理事長の立松有美さんからお話を伺いました。11月24日は小川委員、横坂委員に視察をいただいて、12月8日は伊井委員、鶴巻委員、本間委員、渡邊委員の合計6名の皆様から視察をしていただきました。

当日の流れですが、両日とも、3時ごろスタッフの皆さんが集まって準備を始め、4時くらいに大学生のボランティアが合流しました。子どもたちも4時を過ぎると、学校が終わって徐々に集まってくるという状況でした。この準備の時間、3時半から4時半くらいまでの間に立松さんからお話を伺いました。

スタッフの方たちが食事の準備している間、子どもたちは外で遊んだり、宿題をしながら待っていました。だいたい6時くらいに食事の準備ができて、みんなで「いただきます」をして食べ始めました。食事が終わった後は、子どもたちはトランプをしたり、ボードゲームをしたり、紙芝居を見たりして遊びながら過ごしていました。7時半になると、スタッフの方から声がかかり、後片づけが始まります。後片づけが終わると、そこで終了となってそれぞれ帰宅するという流れです。

こちらが会場の様子を写した写真ですが、あまり広くなく、8畳くらいの和室と、その隣に8畳より少し広いフロアリングの部屋があって、そこで調理もして食事するという状況でした。玄関の入り口には、寄付された野菜が置いてありました。これは12月8日の献立を写した写真ですが、ヤーコンのチーズ焼き、おでん、メンチカツ、紅ズワイガニのごはんという献立でした。

次に立松さんとの懇談の内容ですが、「ふじみ子ども食堂」を立ち上げるまでのご自身の経験ですとか、立ち上げたあとの地域の効果といったことについてお話をいただきました。立松さん自身、坂井輪地区公民館でマタニティ講座を受講されたのがはじまりで、その講座でできた仲間と子育て支援サークルを立ち上げ、読み聞かせなどの活動をされたそうです。その活動をされながら、公民館やにいがた市民大学、アルザにいがたなどの講座を受講して、ファシリテーターとしてのスキルを身につけ、社会福祉協議会や公民館などで講師をされています。そして社会福祉協議会で講師をされていたときに、子ども食堂の存在を知り、東京まで視察に行き、ぜひ新潟でも立ち上げたいと思ったとのことで、2015年12月にプレオープン、そして2016年1月に「ふじみ子ども食堂」を立ち上げるに至ったということでした。

懇談の中で立松さんは、ご自身が公民館で学んだことを今お返ししているのですよというお話をされていました。公民館で学んだことというのはどういうことですかとお聞きしたところ、一つは人とかかわり方を公民館で学んだとおっしゃっていました。公民館で学んだ仲間をつくること、コミュニケーションの仕方などを活かして、現在活動されているとお話をされていました。

立ち上げた後の効果については、それまで藤見団地集会所は年に1回使うかどうかという状況だったそうなのですが、子ども食堂ができてからは、そちらの自治会でも自治会主催で高齢の方向けのランチ会を月2回開催するようになったということでした。それから、市内の大学生、医療福祉大学や県立大学、青陵大学の学生がボランティア登録をして手伝ってくれているとおっしゃっていました。また地域の大人の方や子どもが集まる場所となっていて、スタッフやボランティアの方たちも含めた大人たちが、普段来る子どもたちが来なかったりすると、どうしたのかな、風邪でも引いたのかなというふうに、子どもたちに関心を持つようになったとのことでした。概要報告は以上です。

(雲尾議長)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

では概要の報告は事務局よりありましたので、視察された委員のみなさんからは「学びの循環」の観点から、視察の感想や課題に絞ってご報告いただきたいと思います。報告資料の順番で伊井委員からお願いいたします。

(伊井委員)

今話を聞いて、話すことがなくなってしまったのですが、自分の考えていることをお話ししたいと思います。資料をご覧いただきたいと思います。視察して感じたのは、どうやって寄付を集めるかということなのですが、NHKの報道が大きかったという話をされていました。ここの実際の経営は寄付で賄っているということですが、NHKの報道のあと、最近では個人の寄付も多くなっているという話を聞きました。

それから、スタッフやボランティアにはどういう人達が来ているかということ、にいがた子育てステーションから3人で、西区から2人、新発田から1人。それから、県立大学の学生が来たいときに来るとことで、義務で来るのではなくて、自分の都合のいいときに来るという話をされていて、いい考えだと思いました。

また当日は五、六十人だったと思いますが、人が多いと感じました。一家団らんで食事をするといった状態ではなかったように思います。料理する人が少ないのか、場所が狭いのか、調理場が狭すぎて不便だという感じを受けました。その次に書いてある文章は引用なのですが、みんなで食事をとることで子どもたちの心が育まれるという理念ですが、いろいろな方が集まりふれあいの場所になると、子どもたちの心が豊かになる。みんなで食事をとるということよりも、集まるということが大事だと感じました。その後、けん玉の上手な人が来られてけん玉をやられておられました。紙芝居もやられていました。

2番目に、活動に見える「学びの循環」。②のところに記載しましたが、食事は孤食より大勢で食べた方がおいしいし、楽しい。これは当たり前のことですが、大事なことではないかと思いました。それから、これにかかわる人も大事だと感じました。農協などの食材を提供する人、食事を作る人、食べに来る子どもたち、あるいは一緒に来る両親、全体を見守る地域の人、活動に協力する学生たち。こういった大勢の参加が大事なのではないかと思いました。

ここは子どもだけの居場所ではなく、コミュニティの交流の場だと思いました。たしかに子どもが中心ですが、コミュニティの場として非常に役立っていると思いました。

今後に向けてということですが、これは私の考えです。「子ども」や「食」というと、だれでもなじみやすいし受け入れやすいのですが、またかかわりたいと思う人が非常に多いのですが、残念なことに殆どが女性の活躍の場であって、男性の活躍の場ではないのです。男性も参加させるいい手段がないかと。現役時代からそうした人を育てることが大事ではないかと思います。企業に働きかけることも大事ではないかと思います。

2番目に、新しい企画を提案するとき、あるいは起業するとき、あれは危ない、これはダメだということで、なかなか立ち上げは難しいのですが、そんなことばかり言っても何も進みません。危険だからだめと言うのではなく、いかにリスクを減らすかを考えながら前に進まなければいけないと思いました。そのリスクを如何にしてミニマムにするかが大事。ふじみ子ども食堂では、食物アレルギー対策が一番のリスクで、それを注意しているという話をされておりました。

3番目に、立松さんは、今後ふじみ子ども食堂のネットワークをつくりたいという話をされておりました。例えば食物なら食物を、今はここだけで余ったものを持ち帰ってもらっていますが、ほかに提供するとか、そういう話をされておりました。

4番目に、子どもはお腹が空くと悪いことをするという話を聞いたことがあります。満腹の方が幸せなのです。我々もそうですが、お腹がいっぱいの方がいいなど。そういうことが楽しさを増すのではないかと感じました。

最後に、ふじみ子ども食堂のメニューを写真に撮りましたので、裏面に添付しました。

(小川委員)

私も事務局の説明と伊井委員のお話で、言うことはないのですが、ただ、お話を伺っている

第3 2期新潟市社会教育委員会議

と12月8日は五、六十人の利用者がおられたということで、だいぶ多かったのだなと思いました。私が参加した11月24日は20名くらいだったと思います。当日、立松さんも、今日は少ないですというお話をされていましたが、それがかえって利用者の方、スタッフの方の動きをよく見ることができました。「学びの循環」の観点からということで、立松さんの経歴を拝見すると非常に分かりやすいのではないかと思います。公民館で学んだことを返しているのですというお話でしたが、それと同時に、人と人とのつながりの循環みたいなものができているのではないかという印象を持ちました。ということかという、もちろんスタッフ間でもそうですし、スタッフとボランティア、ボランティアを含めたスタッフと利用者。利用者間でも、いろいろな交流やつながりができつつあるという印象を持ちました。

(雲尾議長)

鶴巻委員は本日欠席でございますので、「報告3」をもって報告に代えさせていただきますのでお読み置きください。

では本間委員よりお願いいたします。

(本間委員)

私も短く感想をと思います。私の「子ども食堂」のイメージは子どもだけで来ているイメージが強かったのですが、実際に行ってみたら家族で来ているという印象でした。五、六人の家族がいくつかいらっしやる感じでしたが、今はどうしても「してあげる」、「提供してあげる」というスタッフの意識があると思いました。「学びの循環」という観点からすると、またそこに集まってお腹いっぱいになって気持ちが満たされたら、何か次に還元したいと思うような工夫を、例えばけん玉をやるとか、そういうアトラクションもありましたが、次につながるようなアクションを参加者の中から生めるような場づくりを工夫していくと、また可能性が広がりそうだなということを感じて持ちました。

(横坂委員)

当日の朝、立松さんに連絡しまして、今日、伺うのだけれども、何か私ができることはありますかと言ったら、今日は調理する人が少ないので、ぜひ手伝ってくださいと言われましたので、包丁を持って出掛けました。私は立松さんとの懇談には参加せずに台所にいましたので、その中から見たことと印象に残ったことをお話ししたいと思います。

立松さんが「失敗しない」ということを、まず念頭に置いて始めたというのはすごく印象的でした。そのためにリサーチして、ここに場所を定めたと言われたのが、自分の住んでいる地域ではないということに驚きました。というのは、コミュニティ協議会などの活動をしていると、「地域の課題は地域で」と言われるのですけれども、自分の住んでいる地域はすごく重いのです。住んでいることが重苦しくなるというか、どんどん積もってくるという感じがあるので、自分の住んでいる地域ではないというのは新しい視点だなと思って、そのことがとても新鮮でした。

ここに書いていないことなのですが、調理をしながら、そこで出会った人たちと話したことをお話ししたいと思います。ある30歳代の女性は自分はひきこもりなのとおっしゃっていました。でも「ふじみ子ども食堂」の案内を見て来てみたら、ここが好きになったとおっしゃっていました。また、女子大学生の3人組と話をしたのですけれども、彼女たちは栄養を専門としているけれども、普段はきちんと食べていないので、ここで食べられるのが嬉しい。自分たちが卒業しても後輩たちに、このことを伝えていきたいと話していました。それからシングルマザーのお母さんが、ここに来てすぐ食べられて、子どもとちゃんとしたものを一緒に食べられるのが嬉しいと話していました。そしてこの日に来ていた中に高校生の男の子がいたのですが、ボクシングをやっていて、今度ボクシングで大学に進学する話を聞いて、それをみんなで応援しているという姿が素敵でした。

最後に、立松さんにとって「子ども食堂」の自分の中での位置づけはどういう感じですかと聞いたところ、立松さん自身も孤食なので、ここでみんなで食べられるのが嬉しいとおっしゃっていました。子ども食堂の翌日は1日疲れて動けないほどだそうです。ですがここに出てくる人たちは、頑張っているというのではなくて、ここに来るのが嬉しい、だれかに伝えたいというのが特徴だったような気がしました。そこが行って楽しい、そしてつながっていくことなのかなと感じさせられましたし、次

第3 2期新潟市社会教育委員会議

の時代が育っていくキーポイントなのではないかと思いました。地域が地域の問題を解決していくことにあまり集中すると、人材をどこから確保しなければとか、ぎゅうぎゅうとしたところになるのかもしれませんが、こういうふうに気持ちが育っていくというのは素敵だなと思って見せていただきました。

(渡邊委員)

皆さん方がいろいろおっしゃいましたので、一番最後は何も言うことはないのですが、活動の概要の中で最初に書きました「放課後子どもたちが一人で来ることができる」、「子ども同士で遊べる」、「子どもが来たい時に来ることができる」、「子どもの居場所がある」という中で、私は子どもたちのゲームをそばで観戦していたのですが、麻雀でした。ルールは子ども用に変えてありまして、大まかにはほとんど同じなのですが、コマ数などが変わっていて、そのルールを見ながら上級生が、ああでもない、こうでもないというようにゲームを進めていました。そのときは3人でやっていたのですが、一番下の小学校2年生くらいの子がルールをよく理解できてなくて、時々自分で先にやろうとするのです。そうすると、上級生が順番だよと、二、三回注意するのです。そういうことを見ていると、やはり子ども自身が子どもを通して、自分も指導的立場やリーダーシップを発揮するとか、受けるほうも諸々のルールがあるということ先輩から教えられるのではないかと思いました。そういう意味では、活動に見える「学びの循環」として、それを第一に挙げたのですが、非常にいいことだと思いました。

大人の茶の間はたくさんありますが、子どもの居場所は少ないので、大人も子どもも、相手に対する思いやりや指導方法がともに育つ環境になっており、非常にいい場所であると思いました。

ただ問題は、今後に向けてなのですけれども、地域のPRをどうしていくかというのが一つありますし、高齢者の参加促進も課題であると思います。もう一つは、人材の育成をどうやって進めていくか。地元主体に切り替わるにはどうするかというところが非常に難しいと思いました。いろいろと今後に向けての課題を私なりに書いたのですが、各地域を見ますと、子ども食堂を欲している地域はあるわけですので、そういう地域で誰かがやらなければならないのですが、誰がどのようにやるのか、非常にハードルが高いと思いました。そうすると、失敗をしないというよりも、失敗してでもいいから作っていくというチャレンジ精神が必要になってくるのではないかなと思いました。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

事務局及び5名の方からの報告がございましたけれども、ご質問等ありましたらお願いいたします。

(神林委員)

両親と子どもというグループもあるんですね。

(雲尾議長)

大家族で来ているんですね。

(本間委員)

例えば片親でなければ来られないとかということではなかったのだと思います。もちろん子どもだけでも来られます。私が行った2回目の視察のときには、家族連れで、北区から車で来たとか、市外からも来られるとおっしゃっていました。

(神林委員)

区内ではなくてね。

(本間委員)

近所から、例えば隣の団地に住んでいるのだと言って来るといった雰囲気ではあまりなかったように感じました。

(神林委員)

北区からというと、どのように情報がいつているのでしょうか。

(渡邊委員)

私が聞いたところによると、食事が6時半に終わって7時過ぎに帰るときに、小さい子どもは保護

第3 2期新潟市社会教育委員会議

者の方に必ず迎えに来てもらうということでした。どうしてもだめな場合は運営スタッフがお見送りしているそうです。

(神林委員)

子どもだけで来た場合は、そうなのですね。

(渡邊委員)

そういう意味では安全に十分気をつけているということでした。

(神林委員)

西区から東区というのはトンネルがあるから、わりと不便ではないのですけれども、北区からというのはすごいですね。

(横坂委員)

「失敗したくない」という件なのですけれども、あれは1号なので失敗したくないということだったのです。ここで失敗すると次につながらないということで、自分たちは失敗できないという思いでリサーチしたそうです。言葉が足りなくてすみません。

(渡邊委員)

インターネットで調べたところ、子ども食堂はだいたい月2回が平均で、場合によっては3回というところがありますけれども、ふじみ子ども食堂の開催回数は平均かなと思って見てまいりました。

(雲尾議長)

今朝の日報の28面に、子ども食堂は1周年について載っておりますので、ご覧いただければと思います。我々が2回連続で訪問した次の回に行ったようです。年末と書いてあるので、12月22日にたぶん取材に行かれたときの、70人くらい集まった様子のことが書かれていて、県内には市内に11か所、県内全体で20か所くらいの子どもの食堂があるとか、来週の木曜日が「ふじみ子ども食堂」のオープン1周年イベントがあるといったようなことが載っておりますので、そちらを確認していただければいいかなと思います。ありがとうございました。

3. 協議事項

(1) 第3 2期新潟市社会教育委員会議建議『学びの循環』による人づくりについて

(雲尾議長)

事務局より、資料についての説明をお願いいたします。

(生涯学習センター所長)

資料1-1、これにつきましては委員の皆様から今まで調査、ヒアリングしていただいたものを事務局でまとめさせていただいたものでございます。またこれは、後に説明いたしますが、3月に行う教育委員との懇談会にも使いたいと考えております。学びの循環について、学校、社会教育機関、地域という、舞台ごとに分けて実践の場の調査やヒアリングをした結果を踏まえて、内容、効果、課題、それから現時点の提言を提示しております。ヒアリング等を実施してから時間が経過してしまったものもありますけれども、本日は皆さんからより議論を深めていただき、中身を確認していただくとともに、さらに加えていくようにとお願いできればと考えております。

内容について説明させていただきますが、まず1番ですけれども31期の社会教育委員の皆様から、生涯学習のあるべき姿を建議としていただいております。これについては、資料1-2に概要版をつけさせていただいておりますけれども、そこで基本方針の柱として2本立て、学社民の融合による人づくり、地域づくり、それから学習成果を生かす循環型生涯学習の推進を挙げています。今回、循環型生涯学習の推進についてさらに掘り下げて、学びの循環による人づくりを進めていくためにはどうするかということで、皆様から今回の建議作成に取り組んでいただいていると認識しております。

2番目の学習成果を生かす循環型生涯学習ということですが、これについては、前回の建議ではここに記載のとおりの内容で位置づけております。3番以降については具体的な話になっていきますが、学校、社会教育機関、地域という舞台ごとに皆様から調査、ヒアリングしていただいたものを列挙してありますので、これについては担当から説明させていただきます。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(生涯学習センター主事)

資料1-1の3番、代表的な例と書かれているところについて説明させていただきます。こちらは今ほど話にもありましたが、31期の建議の分類でまとめてあります。大きく三分類になっております。一つ目が(1)学校を舞台にした循環型生涯学習、二つ目が(2)の社会教育機関を舞台にした循環型生涯学習、三つ目に(3)地域を舞台にした循環型生涯学習という分類でまとめてあります。今まで視察やヒアリングしていただいた内容について思い出していただく意味で、この三分類で振り返ってみたいと思います。

まず(1)学校を舞台にした循環型生涯学習ですが、こちらは9月に西川中学校の福祉体験学習を視察していただきました。このときは小川副議長と神林委員に視察していただきまして、内容は、教育活動の充実のために地域の方々にボランティアで入っていただいて、認知症について学ぶ授業を視察していただきました。地域包括支援センターの職員の方や、デイサービスセンターの職員の方など地域の方々が、寸劇を交えて認知症について教えてくださる内容でした。効果や課題について既に記入してありますが、こちらは報告書や、今まで会議でご発言いただいた内容を事務局でまとめて記載したものです。ニュアンスが違っていたり補足がありましたら、おっしゃっていただければ修正いたしますのでお願いいたします。

次に(2)社会教育機関を舞台にした循環型生涯学習です。こちらは8月の第2回社会教育委員会議の際に、中央図書館で活動されているボランティア団体の方と懇談をしました。中央図書館友の会、それから絵本を楽しむ会の方から活動内容についてお話しいただきました。二つの団体とも、人員確保が課題だということをおっしゃっていました。次に書いてあります生涯学習センターボランティアとの懇談につきましては、本日予定しておりますので、終了後、記載いたします。

続いて(3)地域を舞台にした循環型生涯学習です。こちらでは、第3回、11月7日の社会教育委員会議の際に、西地区公民館のコミュニティコーディネーター育成講座「うちの発掘プロジェクト」受講生から、「うちの暮らしbookプロジェクト」についてお話しいただきました。内容は、うちの暮らしbookという本を作るプロジェクトですが、新大生を中心とした若い人や、内野地域に住む人たちに地域の魅力を再発見してもらうために、内野に住んでいる方の生活や暮らしを紹介する本を作るというプロジェクトでした。お話しいただいたのは、宮城県出身で新潟大学に通っていたわけでもなく、大学を卒業した後、内野に移り住んできた吉野さくらさんという方で、そのあたりのことについてもお話しいただきました。

二つ目はふじみ子ども食堂になりますが、冒頭でお話しがありましたので、こちらは省略したいと思います。

(雲尾議長)

では、事務局から説明のありました資料1-1につきまして、構成や仕分けについて何かお気づきの点、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(伊井委員)

(3)の地域を舞台にした循環型生涯学習の②に、地域コミュニティ協議会の活動も、うまくいっているところもあれば、機能していないところもあると書いてありますが、具体的に、うまくいっているとか、機能していないというのはどういうことなのですか。

(生涯学習センター所長)

31期の委員の皆さん、もし違ったら指摘していただきたいと思うのですが、コミュニティ協議会の活動も地域によって活発にやっているところもあれば、ちょっと活動が停滞しているところもある。そういう違いということで事務局としては認識していたのですが、もし、委員の皆さんから違うということであれば、ご指摘いただければと思うのですが。地域によっては活発なところもあれば、活動が停滞しているところもあるというふうに認識していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(雲尾議長)

伊井委員、それでよろしいですか。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(横坂委員)

(3) うちの発掘プロジェクトのところですけども、先ほどお話があったように、発見とか地域の資源というところで、吉野さくらさんたち、全く住んでいたわけでもなく、新潟大学の学生でもなかった人たちの風というのが大きかったのではないかと、発表を聞きながら思いました。そのあたりが資料の記載の中では見えないので、どこかに入れていただけたらと思います。それからさきほども言ったように、地域の課題は地域でというだけではなく、地域のことを外から見たらどうだったのか。魅力があったとか、そういうような視点から動き出したという可能性もあるので、資料に入っていると良いと思いました。それと、ふじみ子ども食堂のことです。高齢者向けのランチ会というのは最初からあったわけではなくて、子ども食堂に高齢者の方がたくさんいらっしやって子ども食堂が満員になったので、その対策として自治会が高齢者のためのランチ会を開いたと聞いています。新しい企画をしたのではなく、やってみたら次の課題が出てきて、自治会長が、それは地域で、うちが昼やりましようかという話になったと立松さんご自身から伺いました。

(雲尾議長)

うちの発掘プロジェクト自体は、今週土曜日に成果報告会がございますので、うちのまちづくりセンターで午後1時半から5時まで、八つのプロジェクトを皆さん発表されます。確かによそから来た人たちもいるけれども地域の人たちも来はじめたという点で、彼女たちがここ2年間くらい頑張ってくれているのもありますので、確かに効果もありますけれども、今回、やっと地域の人たち自身が動き始めたかなというところがあります。内野町というのは、もともと新潟大学の学生がけっこういろいろな事業で入っているの、事業慣れしているのです。来てやってくれる分にはどうぞと言って、やっとうまくいったらよしよしとなり、やっばりうまくいかないじゃないかと、そんなことがいろいろ洩れ聞くとところだったのです。今回の発掘プロジェクトに関して言うと、内野の町の人たち自身が自分たちで動き始めたというところが、これが今までとは大きな違いがあるかなというところ。そのための公民館での学び、仕掛け等がうまくつながっているのではないかとこのところはありますので、その辺も含めて、そこに確かに彼女たちの刺激もかなり強かったとは思いますが、その辺を含めて書けるといいかと思えます。

ふじみ子ども食堂については、おっしゃるようにそのことについては、詳しい方には書いてありますけれども、ここでまとめるときにはそれが抜け落ちたのだと思いますので、まとめるときにはきちんと入れていただきたいと思えます。そのほかいかがでしょうか。

では今後、建議策定にあたりまして、資料1-1の構成や仕分けをベースに進めるということでご了承願いたいと思えます。

(地域教育推進課長補佐)

事務局の立場ですけども、(1)の提言の「地域教育コーディネーターの方たちが会議だけではなく、実際に結ばれる講座の視察をされる必要があるのではないかと」という記載について、担当課として、実際に結ばれる講座というのがどのようなことをおっしゃっているのかお聞きしたかったのですが。

(神林委員)

西川中学校の地域コーディネーターが鶴巻さんなのですけども、ケアセンターで働いている地域の人たちと学校の生徒をうまく結びつけていたのです。そして、地域に還元しているから、そういうものを他のコーディネーターの方々が、視察というのがちょっと違ったのかもしれない、研修という意味だったのですけれども、他のコーディネーターの人が、実際にそういう現場を、そういうことをやっているというのを見てもらいたいという意味だったのです。

コーディネーターは地域の住民に学校に手助けにきてもらうという、そういうつながりをつくるというイメージが強かったのですが、西川中学校では、子ども達が勉強したことを自分たちの地域に返して、循環していたのです。コーディネーターは、お手伝いのボランティアをお願いしますという感じだけの気がしているのです。

(地域教育推進課長補佐)

第3 2期新潟市社会教育委員会議

コーディネーターの仕事としては、地域を結ぶというのがコーディネーターという名前なので、そこが一番で、そこから先は、やはり学校の課題としてどのように捉えているかというのを、学校とも相談しながら進めていくということもあるかなと思います、子ども達が地域に出てくるというのは、わりと多くの学校でやっていると思います。

(神林委員)

三つをつなげていたのです。地域と学校とケアセンターの人たちと。

(渡邊委員)

昨年度、県の地域連携コーディネーター講座を受けたときに、コーディネーターをされている方や、これからコーディネーターをやりたいと思っていられる方とお話をしたのですが、聞いてみると一生懸命やっていて地域との密着感が非常に強いコーディネーターの方もいらっしゃる、お話しがあったように、ただ連絡係みたいに、お願いしますという方もいらっしゃるのです。仮にコーディネーターというものの在り方を考えたときに、地域でも理解して受け入れる、そういう土壌を作っていかなければならないと思います。

(神林委員)

コーディネーターの役割が、地域と学校だけ、人材を頼み込んでボランティアに来てもらっているところで止まっていて、その仕事だけでいいのかと感じていたのです。

(横坂委員)

地域によっても違うと思うのですが、私の住んでいる地域のコーディネーターが、学校やコミュニティ協議会ですとか、様々な会議に全部出ているのを見て、その大変さを身近で感じています。コミュニティ協議会というのは自治会が全部入っているわけです。地域のいろいろな会議で実情を知って、つなげて、学校に戻って、それからPTAともかかわっていますよね。そうすると、かなり負担がかかっている感じがします。たまたま私の住んでいる地域がそうだからなのかもしれないのですが、これ以上乗せられないくらいやっつけらっしゃるので、そのコーディネーターの方たちにまた全体会議で交流会が入ったら、いっぱいだなという気がします。

(神林委員)

年に2回くらいは全体会議があるようなことを聞いています。

(横坂委員)

それは多分、青少年育成協議会とかそういうところには必ず入っていきますから、そこでの活動にも参加して、当日協力とか準備とか、見えない部分で随分出ていっているというか、時間を地域とつなげるために使っらっしゃるのではないかと思います。

(田村委員)

地域教育コーディネーターになると、大体コミュニティ協議会の何らかの役割について、地域の方々とかかわっていて、あと、区によってですけど、コーディネーターはコーディネーターの交流会が何回かあるのです。ただ、ここに書いてある、実際にその学校に行ってコーディネーター同士でどんな活動をしているのか視察するということはあまりないのかと思います。確かに地域教育コーディネーターの方々が集まって、それぞれの情報交換というのは確かに区ごとにもあるし、全体でも何回もあるし、ただ、特になっただけの方々というのは、どう動いていいかわからないという方ももちろんおられると思いますので、こういうふうにお互いに見に行くというのは確かに少ないのかなと思います。本当に地域教育コーディネーターの方々は、人によっても違うし地域によっても違うのですが、いろいろな仕事をもって、うちの学校の地域教育コーディネーターは子ども食堂の代表になったり、いろいろな形でいろいろな付随する仕事も持っている、地域によって違うのですが、そういう方も多いのかなというふうに思います。

(神林委員)

学校外に行くときはやはり会議が多いのです。自治会の会議に出るとか、コミュニティ協議会の会議に出るとか、そういうものばかりでなくて、ほかのコーディネーターがやっている活動の実態を見て、研修して幅を広げてもらえたらいいなという意味で書いたのです。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

(雲尾議長)

私どもが学生を連れてコミュニティセンターなどに行くときに、主事さん一人で大変なので、近くのコミュニティセンターの主事呼んで、3人かかりくらいで我々の相手をしてくれたりするのです。例えばそういう事業をやるときにも、コーディネーター同士、足りないところがあれば融通しあつてとか、お手伝いという形で逆に授業にも体験するという方法もあるかもしれないし、そういったような形で授業そのものを見てもらうような研修も必要ではないかというご提案というふうに。

(神林委員)

近くに毎週行っている、朝の読み聞かせボランティアに、近くの小学校のコーディネーターが見学に来たことがあったのです。自分の学校でも始めたいと言ったけれど、なかなか始まらなくてやきもきしていらっしゃるみたいですけど、見てみると、やってみたいということも出てくるから、実際の現場をコーディネーター同士で研修みたいな感じで行けたらいいなと思ったのです。

(雲尾議長)

資料1-1をベースにして進める中で、三分類、(1)学校を舞台、(2)、(3)、分類ごとにこれまでの視察ですとかヒアリングの結果を振り返りまして、その効果や課題、提言を中心に学びの循環の観点からご意見をいただきたいと思えます。今、ちょうど話題になっておりましたけれども、学校を舞台にした循環型生涯学習について、西川中学校の視察を振り返っての今回の課題、提言は、実際結ばれる講座については議論があったところですけども、これにつきまして、さらに効果や課題、提言等加えるものがありましたら、お願いしたいと思えます。今は、提言のところの実際結ばれる講座のところをもう少し分かりやすく書くという形での修正があったかと思えます。その他いかがでしょうか。

(小川委員)

今、神林委員から提言の部分でいろいろお話しがありました。これはどちらかというと、現在コーディネーターをされている方の力量をどうやって伸ばしていこうかという、そういう意見だと思うのですが、今日はお休みですが委員の鶴巻さんと前期の委員の荏原さんにお話しを伺ったことがあるのですが、そのときにお二人から共通して出てきたのは、コーディネーターをずっとやっていらっしゃる方もいるけれども、交替することが非常に難しいということでした。もっと言うと人材をどう探してくるかということが、非常に難しい課題ではないかというようなお話を伺って、この前、西川中学のときには、もう一人若い方がコーディネーターをされているという話だったのですが、市としては今年度から複数配置を進められていると思うのですが、そういうことも含め、コーディネーターの人材をこれからどういうふうに確保していくかというか、育成というのか、あるいはどう探すのかとか、そういうことというのは一つ大きな課題としてあるのではないかと、視察をしても感じました。

(神林委員)

荏原さんがおっしゃっていたのですが、コーディネーターは交替すべきだとおっしゃっていました。

(小川委員)

荏原さんはそういうお考えですね。

(神林委員)

そうでないと育っていかないし、活動が止まってしまうというか、同じことの繰り返ししかできなくなってしまうので、やはり交替すべきだとおっしゃっていました。

(渡邊委員)

今、交替すべきというお話しがありましたけれども、交替するかどうかは別にして、お勤めを持っていらっしゃる方がコーディネーターをされていると、当然制約があるのです。例えば会議に出るにしても、先ほどお話のあったほかの講座あるいはよそのグループとディスカッションするにしても、時間の制約というのが当然あるのです。だからそういうところはどうしても停滞しがちになっているように見受けられました。それではどういうところがうまくいっているかという、今、リタイヤシ

第3 2期新潟市社会教育委員会議

ているのだけれども自治会長をやられていたとか、コミュニティ協議会で役員をやられたという人がなっていたと、比較的、地域全体がスムーズにいくというような話を聞きました。資格うんぬんよりも、どういう選び方をするのが最善かというのもあるかもしれませんが、個人の質の問題も当然出てきますので、非常に難しい問題だと思っております。

(雲尾議長)

学びの循環の観点からいうと、地域の中で人間関係を作られている方がなられる方がいいというご提案ですね。

(渡邊委員)

そういう意見もありました。特に、うまくいっているところはどこかという話を聞いたら、そういうお話が返ってきました。

(伊井委員)

関屋地区公民館で、地域教育コーディネーターが来たことありますかと聞いたことがあるのですが、来て一生懸命やっていますということでした。何を言いたいかというと、コーディネーターの仕事の見える化です。コーディネーターがどういう仕事をしているか知らない人が多いのではないですか。もっと見える化してやると、皆さん方もこういう人達がこういうところでこういう仕事をしているのだというのが分かって、しかもそういう人材も育つだろうし、見つけることもできるのではないのでしょうか。私は地域教育コーディネーターに依頼されて基をやりに行ったり、布草履づくりに行ったりしたことがありますが、地域教育コーディネーターが活躍している現場を見たこともない人が多いのではないのでしょうか。見える化してやることが、人材育成にもなるし、人材発掘に寄与するのではないかと思います、いかがなものでしょうか。

(横坂委員)

学校の子どもたちはコーディネーターの存在をよく知っていると思います。先生方は代わっても地域のコーディネーターはいてくださるので、私は子どもの親に近い世代の人がコーディネーターでいる方がいいのではないかと考えています。コミュニティ協議会の会長ですとか地域の方たちにお知恵をいただいて、皆さんで子どもの親世代の人たちに手を貸しながら地域を作っていく。今、コミュニティ協議会でも自治会でも若い人達がなかなか入らないという現実がありますよね。役員にならない、若い人どうしていると言われるのですけれども、そういう人たちを助けながら地域が育つのを見守っていただきたい、経験した人だけがやるのではなくて、経験した人の知恵を次の世代の人たちが実現していくという考えではだめでしょうか。

(渡邊委員)

これは、各地域によって違うのか分かりませんが、コーディネーターの活動費というのがあって、その活動費の範囲内で動こうとすると、おのずから制約されるという面もあるようです。それはそれぞれのコーディネーターが、いろいろなところで自分の思いで活動をしようとしたときに、そういう壁にぶつかることがあるということは聞いております。

(齊川委員)

今、皆さんのご意見を聞きながら、まず一つ目が、2番の学びの循環についてという31期の建議のところで、とにかく今までは自分がやってきたことをいかに地域や社会に生かしていくかという循環。もう一つは、今、そうでない方々を、例えばコーディネーターならコーディネーターとして、それを次にどうつなげていくかという、二つの考え方が学びの循環というところだと思うのです。

実際、地域教育コーディネーターというのに的を絞れば、数年前に初めてコーディネーターを選んだときに、学校サイドは、いかに地域を知っている方をコーディネーターにしていくかということに第一に考えました。私も前任校のコーディネーターは自治会にも入っている、体育指導委員でもある、民生児童委員でもあるとか、いろいろな役職を持っているわけです。ですから顔が広がった。だから頼むといろいろな方を連れてきてくれたという、学校との橋渡しをしてくださった。でもそれが、だんだん高齢化してきて、だんだん世代を変えていかなければいけませんねというところで、やはり、今私の学校はついこの前まで一人だったのですが複数化ということであと二人入れて、三人体制でや

第3 2期新潟市社会教育委員会議

っています。それだけエリアが広がって人材も多くなった。それを交替の時期に、新しく入った方々をどうその中で生かして次につなげていくかというところが、今、私の学校の課題なのかと思っています。それが一つの循環に入っていくということですよね。

それから、地域を舞台にしたというところで、例えばよしのさくらさんも考えてみればなぜ内野の町にかかわろうとしたのかという、彼女自身、何かしら今まで培ってきたものがあると思うのです。それは何なのかというあたりを突っ込んで聞いて、そしてだからこそ内野という町に興味を示して、こういうことをやりたい。それが公民館というところとタイアップをして、公民館はそういう人たかをいかにつなげて、内野ばかりではなくいろいろなところにやっていくか。立松さんに関しても、自分がやってきたことの恩返しということでやりはじめた。それを今度、自分だけではなくいろいろな方を巻き込んで、自分がもし高齢になったときに次につながっていくように、すべて循環というところの中の人づくり。その観点をきちんとやっていけば、建議がうまくいくのかと思うのですがいかがでしょうか。

(本間委員)

普段学校支援をやっているのですが、地域教育コーディネーターは、新潟市としてとても大事な財産だと思いますし、今回の学びの循環というテーマに対してすごく大事な存在だと思っています。ここで提案できることは、学校を舞台にしたというところはもっとありそうな気がしていました。私もコーディネーターとのかかわりが長くあって、今、感じていることとしては、先ほど横坂さんがおっしゃったような、もっと若い世代がコーディネーターになっていくといいなとも思いました。これから社会に開かれた学びということで、学校も地域の素材を教科横断的に展開していく必要がある。そうなったときに、地域教育コーディネーターの存在というのはますます大事になってくると思うのです。コーディネーターも今すごく面が広がっていますし、まだまだ認知度は低いということではあるのですが、一定の役割を果たしてくださっていると思うのですが、さらなる専門性も必要なのかと感じていて、同列でたくさんのコーディネーターというよりももしかしたらもっと学校教育にアドバイスできる、例えばこういう存在とかこういう素材が、教科領域でこういうふうにと、カリキュラムマネジメントにも携わることができるような方に育っていただく、もちろん全員とは言わないのですが、何人か、区の中で例えば一人とか、スーパーバイザーみたいな形でやっていける人がいると、学びの循環というところにもっと加速度をつけられるのではないかと思います。

(横坂委員)

すごくいいなと思いつつながら伺っていたのですが、協力もしながら喧嘩もできないといけなと思うのです。学校のお手伝いではない。地域のお手伝いでもない。やはりそこは、きちんと自分の立場で発言できる位置に立てるように配慮されなければならないと思います。そのためには、本間委員が言われたように専門性を持つとか、意見を言える土台を育ててもらうということが大事なのではないか。ともすれば、お手伝い側に回されてしまうこともあります。協働というのは、立場的には共に働く立場のはずだと思うので、そういうふうにしっかり支えてくれる専門を持った方がついてくださるとどれだけ心強いただろうと、今のご意見を聞きながら思いました。

(雲尾議長)

あと、学校単位とした中で、地域教育コーディネーターに話が特化していますけど、やはり学校に関わる地域の方々が、どのように学びを生かしていかれるかとかいったような観点、そういったところは少し書かれてほしいなというものもありますし、もう一つは、あと保護者として、PTAが関わっていることについても、何か学校を舞台にしたという中に書き込めるといいなと思いますので、これは、このあと補充していくような形で進めてさせていただきたいなと思いますので、そういう観点でまた次からもご提案いただきたいと思います。

では、学校を舞台にした循環型生涯学習につきましては終了しまして、事務局より今ほどの意見を集約して資料を修正していただきます。

次に(2)社会教育機関を舞台にした循環型生涯学習についてでございます。中央図書館ボランティアとの懇談を振り返りましての今回の課題、提言等ここに書かれていますが、このほかございませ

第3 2期新潟市社会教育委員会議

たら、またご意見等ありましたらお願いいたします。

(雲尾議長)

先ほどもそうですけれども、学びのスタートの時点が描かれると、もう少しいいのかなという気がいたします。中央図書館ボランティアの方々께서そこにボランティアに入るまでの、どういう学びから始まってボランティアに移行していったかみたいなのところも描かれると、流れとしてはよくなるかもしれないです。

そうすると、若い人たちに入っていただきといったときも、何でもかんでもその辺で捕まえてというわけではないので、どういう学びをしている人が入りやすいかとなると、その学びの場をどう設定するかという形のリクルートメントの部分が描かれてくるかと思うので。この後、後半で生涯学習センターボランティアとの懇談もありますので、それも合わせて(2)は考えていただくということで次に進めさせていただきます。

次の(3)地域を舞台にした循環型生涯学習でございます。「うちの発掘プロジェクト」につきましては、先ほど一つございましたし、ふじみ子ども食堂についてもございましたが、ここに書かれています内容、効果、課題等につきまして、提言等がございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

(小川委員)

中身のことでなくて、学校のところも社会教育施設のところも、提言が入っているのですが、地域を舞台にしたところには、提言がまだ入ってないのですが、これは何か理由があるのでしょうか。

(生涯学習センター所長)

ここで落とし込んでるのは、議事録とか過去の報告書を元にして落とし込んでいたものだったので、私どもで読み取れなかった、言的な部分もあるのかもしれないのですが、読み取れた部分を議事録や報告書から落とし込んであります。ですから、落ちがあれば、この場でいろいろと教えていただければと思っています。

(小川委員)

そうすると、今日はふじみ子ども食堂の視察の報告があったので、例えばその中からこういう提言ではないかというふうに入って行く予定なのですね。

(事務局)

はい、そうです。

(小川委員)

分かりました。

(本間委員)

提言の一つの視点として思うのですが、こういう例に出ている「うちの発掘プロジェクト」とか、ふじみ子ども食堂はわりと知名度があるのかもしれませんが、とても素敵なことをやっているのになかなか知る機会がないというのは、特にこの地域を舞台にした循環型生涯学習というところで、より見えにくいのかなと思いました。もう少し発信をしていくというか、ここにつながっていく、アクセスする糸口がもっとつけていけるといいのかなと思いました。多分学校とか施設があれば、わりとできているのかなと思うのですが、ここに関して、公民館でどんなふうこれを発信できているのかなという、もう少しできる部分もあるのかもしれないと思いました。

(伊井委員)

地域を舞台にした循環型生涯学習、これは公民館の活性化そのままです。今、公民館で活動しているサークルの数は確か減少しています。公民館は地域に密着した施設ですから、ここをうまく利用して、地域における循環型生涯学習の推進に役立てるのが肝心だと思います。

私が今携わっている基では、打つ人はどんどん減っています。子どもたちもやらないので、高齢化してくる。そうすると誰がやるのかと言うと、女性の方が多いです。

その辺がどうしたらいいのか自分でも分からないのですが、公民館をもう少し活性化すれば、より

第3 2期新潟市社会教育委員会議

良くなっていくだろうと思っています。さっき言いましたように、コーディネーターもその一例だと思いますが、私にはあまり接点がないので見えないのです。

公民館には大勢の方がやってくる、協力員もいる、うまく活動すればもっと活性化していくのではないのでしょうか。地域を活性化するには公民館をうまく利用するのが、新潟市の場合いいのではないかと思います。

(渡邊委員)

社会教育主事という資格があって、それは本来ですと公民館にはいらっしやるはずなのですが、地域に出張しているかどうか分かりませんが、それが地域に見えてきません。学校においては、社会教育主事の資格を持っていない教員の先生もいらっしやるというふうに聞いておりますけれども、今現在どの程度そういう方々が活動をしているかというのは、表立ってはあまり見えない。区役所にも、社会教育主事の資格を持っていますけど、実際は活動していませんというような方もおられるように見受けられるので、これからますますそういう方々の活躍が期待されるのではないかと思います。

(横坂委員)

運営審議委員の立場から公民館に関わってきたのですが、今の公民館は、皆さん車で動かれるので、地域と密接に関わっていないというか、利用者がそこに住んでいるとは限らないのです。ですから、公民館の活性化とその地域の活性化は必ずしも一致しないというか。ある意味では貸し館のように使っている人たちもいるわけです。大きなところはすごく多いと思います。行かなくても予約が取れますから、そうすると早い者勝ちで若い人たちがなかなか取れなかったり、子育て世代が取れなかったり、苦戦しております。平等にということになると、何が平等なのかちょっと分からないのですが、若い力がちょっと押されて、毎週取れなかったりするというのが現実の話なのです。

公民館が活性化することと地域が活性化するというのは、昔と違って必ずしも同じではないような気がします。その中で、ゆりかご学級が頑張っていて、それは公民館の自主事業ですが、そこが講座を終わったお母さんたちに無料で場所を貸しているのです。そのことによって、お母さんたちが講座が終わってからも、社会復帰してからも、メンバーは会うのだと言っていました。そういうふうに公民館が自主事業で頑張っているところがあります。

(伊井委員)

今言われたのは確かにそうかもしれません。けれども、コミセンもありますが、やっぱり公民館を活性化しないと、これからどんどん高齢化して、一人住まいばかり多くなってしまっていて、出て来られなくなるのではないかと思います。そこで役立つのは公民館ではないかなと、私はそう思います。だから公民館の職員の方も若い方が来て、一生懸命やってくれば、もっと活性化するのではないかと、そんな感じがします。

あるいはもう一つは、学生さんとうまく協力できたらと思います。私たちの世代が勉強するというのは家の中でやるしかなかったのですが、今、公民館を開放して部屋まで貸して勉強するようにしていますよね。家でやるよりは、公民館に来てやったほうが非常にいいのではないかと、条件が揃っているのではないかなと思っています。

(横坂委員)

それと、家に居られない子どもたちがいますね。思春期の子どもたちも夜まで居られる場所なので、公民館はそのためにもちょっと管理できるところに座席を置いてくださったり、小中学生を守るためのカメラを付けてくださいとお願いして、公民館が付けてくださいました。地域としてはとても嬉しかったです。勉強する場であり、子どもを守る場でありということは、ほかでは絶対にできない公民館活動だと思っています。

中学生の男子が雑談のなかで、「大人はいいよね、赤提灯があって。僕らにはないから公民館に来るんだ」と言っていました。そういう感覚で来てくれるのはありがたいなと思ったことがあります。コミ協の施設は無料ですけれども、公民館は有料化したので、そんなこともあるのかもしれませんが。

(雲尾議長)

公民館、社会教育施設の部分もある。要するに地域の中で、場所なり人なりというものをどう設定

第3 2期新潟市社会教育委員会議

するかいということが、まだちょっと描かれていないようですので、その辺を補充しながら進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

では、これらのことにつきまして、本日の意見を集約して資料を修正して進めてまいりたいと思います。

(2) 新潟市教育委員との懇談会について

(雲尾議長)

事務局より説明をお願いいたします。

(生涯学習センター所長)

年間スケジュール表には記載していたのですが、今期の社会教育委員の皆さんと教育委員の懇談会を3月に開催させていただきたいと思っております。不確定な部分もありますので、申し訳ありませんが、資料はございません。期日と場所をこれから申しあげますので、お書き留めいただければと思います。期日は3月15日(水)午後1時半から1時間の予定です。場所につきましては市役所本館6階の講堂を予定しております。

参加者の皆さんにつきましては、社会教育委員の皆様と、資料2にあります教育長、教育委員ということで予定しております。

内容は、本年度の4月から調査・研究いただいている学びの循環の人づくりの取組み状況を踏まえた意見交換ということで考えております。これはイメージなので、若干変わる可能性はありますが、当日、参加者の委員さんから簡単な自己紹介をしていただいた後に、雲尾議長から、今回の建議の取組み、中間報告ということではなく取組み状況ということで説明していただきます。その後、現地調査に参加して感じたことなど、今回、取り組んだことについても感想や考え、意見、社会教育委員になつての感想や思いなど、また教育委員に伝えたいことがあれば、まず二、三人の方に口火を切ってお話していただければと考えています。その後、時間の許す限り、教育委員と社会教育委員の皆さんで意見のキャッチボールをしていただければと考えています。ただ、時間の制約がありまして、1時間という枠の中でお願いしたいと考えております。

当日使う資料につきましては、先ほど協議していただいたA3のペーパーを考えているのですが、提言については最終報告時に出すほうが適切と考えていますので、その部分は除いて考えています。

スケジュールがタイトでございまして、3月の教育委員との懇談会の前に、2月7日の教育委員会定例会で私が今期の取組状況について概要を説明させていただきます。その後3月15日が懇談会で、次の社会教育委員会議は3月21日になります。3月21日に懇談会の結果を整理していただくというスケジュールです。したがって、教育委員への事前説明を行う2月7日の時点では、今回の資料をある程度整理しておく必要があります。事務局で早速その作業に着手いたしますが、時間の制約がありますので、雲尾議長と副議長とのすり合わせで今回はご了解いただければと考えています。

また、今回教育委員にこれは話したいというようなことがあれば、いろいろ出していただくとともに、当日、話の口火を切る方、二、三人を決めていただければと考えております。よろしく申し上げます。

(雲尾議長)

3月15日の教育委員との懇談会につきまして、ご質問ですとかご意見、当日、教育委員に伝えたいこと等がありましたら、ご発言いただきたいと思います。いかがでございましょうか。

(本間委員)

教育委員の方々とお話をするにあたって、どのような話をしたらいいのかというイメージがつかなくて、教育委員というと学校教育のイメージが強いのかなと思ってしまいますのですが、お伺いしてもいいでしょうか。

(生涯学習センター所長)

学校教育も社会教育も両方教育委員の所管事項になっています。また、教育委員会というのは行政委員会なのですけれども、趣旨として、市長部局に置いていないというところは、そのときの政治に

第3 2期新潟市社会教育委員会議

左右されず、市民の意見を取り入れながら、一貫した教育を行っていくのが教育のあり方ということで、教育組織になっています。社会教育も教育委員会の枠の中で仕事をするような形になっていますし、学校教育についても所管していますので、学校教育にかかわること、社会教育にかかわること、どちらも教育委員に対してご意見があれば皆さんからお話していただければと思います。

(渡邊委員)

名簿を見ますと、担当区割になっていますよね。この担当区というのは、教育委員の皆さんは年何回行かなければならないとか、4か月に1回とか3か月に1回とか、毎月行きなさいといったことがあるのでしょうか。それとも目的があったときだけ、例えばこれをしなければならぬというように教育委員会で決まったときだけお伺いするのか。その辺りの普段の活動を教えていただければありがたいなと思います。

(生涯学習センター所長)

担当区については、地域教育ミーティングなどで、年何回か地域に入っているいろいろな意見を吸い上げております。また、その区の教育に関する行事などがあれば積極的に参加しつつ、教育に関する問題をいろいろ相談していくというイメージで考えていただければいいと思います。

(長浜教育次長)

補足させていただくと、担当区はあるのですけれども、あくまでも教育委員は新潟市全体の教育について大事なこと、条例や予算など議会に関することについて、議会から意見を求められたり、あるいは、教育ビジョンなど、新潟市の教育全体をどうしていくかという、そういう大きな方針を教育委員が集まる教育委員会という会議の場で合議によって決定しています。その中で、新潟市は特に担当区制ということで、二人一組で二つの区を担当しています。そして、地域で地域の方と意見交換をしたりするときには、自分が担当をしている区に出かけて行くということで、担当区というものを設けております。ただ、あくまでも新潟市全体の教育についてどう考えるかというのが本来の仕事です。

担当区に出かけていく場面として、教育ミーティングには2種類ありまして、区の教育ミーティングと、それから中学校区ごとに行っている教育ミーティングがあります。区の教育ミーティングについては、前半と後半で区ごとに2回実施していますので、それぞれの教育委員が二つの区を担当していますから、それぞれ年間で4回、区の教育ミーティングに参加しています。そのほかに中学校区の教育ミーティングがありまして、中学校区ごとに所属する中学校と小学校の校長先生、地域教育コーディネーターやPTA関係の方など、そういった方が集まって意見交換をする場があります。あと、中学校区については大体8中学校区あるところと6中学校区ある区があるので、全部で14中学校区くらいになるようにして、1年間では回り切れないので、2年間で一巡するように中学校区ミーティングにも参加しております。それが年間8回、9回くらいです。中学校区のメンバーの方たちと意見交換したり、区の教育ミーティングに関しては、自治協議会の方や自治協議会の中の教育関係の部会の方たちと意見交換しています。新潟市の教育について説明をすると同時に、地域の方たちが教育についてどのように考えていらっしゃるかということ意見を交換しています。そのほか、自分の担当する区のウェルカム参加日などには可能な限り出席いただいています。

(渡邊委員)

ありがとうございました。

もう1点ですけれども、学校評価委員会というのがありますけれども、こちらのほうには入っていらっしゃらないのですか。

(長浜教育次長)

教育委員は入っておりません。

(雲尾議長)

教育委員会の所管事項全体の基本方針を立てる教育委員会に対して、社会教育委員会会議としていろいろなご要望やご意見等、ご質問等がありましたら、お出しいただきたいということです。政令市20市の会議の中では、川崎、横浜、相模原の神奈川県3市と、京都、大阪ぐらいでしょうか、やっているところは少ないので、せつかくの新しい機会でございますので、有効活用して実のあるものに

第3 2期新潟市社会教育委員会議

したいと思いますので、ぜひ積極的に、要望をぶつけるだけの場ではないのですが、意見交換できるように、例えば教育委員の考えを聞きたいというようなことでもかまいません。言いにくいお立場の方もいると思いますが、個人の意見ではなくて代表してという形でおっしゃっていただければいいかと思えます。

(本間委員)

先ほどの地域教育コーディネーターとか、前回の31期のときもそうでしたけれども、地域教育コーディネーターさんが、それこそ社会教育という場面でも担っていけるのかという点は、一つ話題としてあったらいいのではないかと。

(雲尾議長)

前半は地域教育コーディネーターの話がかなり出ておりましたので。

そのほかいかがでしょうか。2名ほどご質問していただく方を選出したいということだったのでけれども、なかなかご意見がないようなので。当日話したいことなど、簡単に出てこないでしょうか。

(小川委員)

当日話したい方を決めるのは、当日の皆さんのご予定を聞かないとおそらく決められないのではないのでしょうか。

(雲尾議長)

今のところご出席が確定している方はいらっしゃいますか。可能ですか。一応、皆さんご出席というご予定でよろしいでしょうか。

(小川委員)

私は予定があり、参加できません。

(雲尾議長)

小川委員はご勤務の都合でご無理なようですが、そのほかの方はご出席ということでしょうか。鶴巻委員は分かりませんが、では、10名参加予定という中で、ご質問、ご意見等をお聞きしたいところなのですが、こういったような形で質問したいので、それについて詳しくはお願いしたいという方で後日個別にお願いするかもしれませんが、そのときにはお引き受けいただきたいと思えます。よろしくお願ひいます。

では、ここで少し休憩させていただきます。4時再開といたします。

(休 憩)

4. 事例研究

(1) 生涯学習センターボランティアとの懇談

(雲尾議長)

再開いたします。

事例研究でございます。生涯学習センターボランティアとの懇談ということで、ボランティア事業につきまして、まず生涯学習センターより説明をお願いいたします。

(生涯学習センター所長)

それでは、説明いたします。お配りいたしました資料3をご覧ください。生涯学習センターにおける主な学びの循環の支援事業です。発表されるボランティアさんについて記載してあります。学びの循環のためには、学習機会を提供するとともに学んだ成果を活かすための活動機会の創出、それらの情報発信が大きな柱と考えております。生涯学習センターでは学びの循環についての取組をボランティアさんと協働で行っています。ここにお出でいただいております「Lの会」、「あそぶんジャー」、「パソコン指導ボランティア」の皆さんは主に学習機会の提供をされており、学習したい方を学習機会とつなぐのが「ひだまり」の皆様です。学習機会の提供、学習相談を実施することにより、学んだ成果・知識を生かすということで、外に向かった学びの循環。また、学習機会の提供、学習相談のためには、ご自身がさらなる学習を行うということになりますので、自分自身の中での学びの循環が生まれていると考えております。

第3 2期新潟市社会教育委員会議

また、人と人とのつながりや絆が薄くなっていると言われて久しい状況ですが、この循環を進める中で、新たな人と人とのつながりが生まれるとともに、つながりが太くなることにつながっているというふうに考えております。概要についてお配りしました記載のとおりでございますので、ご覧いただければと思います。

(雲尾議長)

ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、生涯学習センターで活動されているボランティアの方々より活動の詳細についてご説明いただきます。

まず、生涯学習センターボランティア「Lの会」、会長の岩間様と土屋様よりお願いいたします。

(岩 間)

生涯学習センターボランティア「Lの会」の岩間です。

(土 屋)

土屋と申します。よろしく申し上げます。

(岩 間)

私が代表してお話します。

こちらに資料を展示しましたが、去年10月の中央公民館の文化祭のときに使った資料でございます。1年間の活動を写真をまじえてまとめています。私たちは今、女性が11名、男性が14名の25名のメンバーで活動しています。平均年齢も男性は75歳ぐらいになっていて、かなり高齢化しています。研修とここにあるのは、自分たちの勉強です。例えば新潟の市政を勉強しようということで、新潟市消防局に行って消防活動を見学しました。去年は、Lの会の結成10年だからお祝いしよう、自分たちで楽しもうということで仲間を集めて、展覧会や芸能大会をやりました。会員が減っているというようなこともありPR活動もしています。生涯学習センターボランティアだけではなくて、福祉のボランティアとか、そういう会場に行って、高齢者大学でのPR、仲間作りのボランティアなどをやっています。

10年間いろいろやってきたけれどもうまくいったものが最後に残ったということで、クロスパルの4階のホールを利用した定期的な春、夏、冬の「映画鑑賞会」。仲間を集めて情報交換をしながら工作の練習をしようといった「大人の工作練習会」や、子どもの「夏休みものづくり体験」、定番になりました「初心者蕎麦打ち体験」の四つがこの10年間を通して定着した事業になっています。これは生涯学習センターの共催事業として実施しています。毎年繰り返していますけれども、だんだんと年をとってきますので、楽しみながらやっています。

講習会、勉強会、見学会などを合わせると24件くらいで、月に二つくらいずつやっています。こういったものをどのようにやっているかということ、25名のメンバーでそれぞれ、例えば子どもの関係ですと子ども部、映画の関係ですと講座部、施設の関係ですと施設部、全体の広報活動は広報部ということで、組織的な活動に分担しています。自分の好きなところに入って、子どもの好きな人は子ども、映画の好きな人は映画と、それぞれの役割分担をしております。ボランティアの場合はそれぞれ好きなところに、私はここといった形で入っています。

10年間やってきて一番の問題は、最初50人以上いたメンバーが減っていることです。高齢化が進んでいますが補充が十分できていません。生涯学習センターにもお願いして講習会等をやっていたいのですが、まだ十分ではなく、今25名ですが、減ってきております。2番目の問題点としては、ボランティア同士の交流が少なく、ボランティア同士の交流の場づくりが問題かなと思っております。2階にボランティアスタッフルームがあるのですが、今日、集まったメンバーは初めて会ったのです。お互いによかったねということで、部屋はあるのだけれども場づくりがないということで、そういうことがこれからも必要ではないかと思っています。3番目の問題点としては、活動を継続させるための力です。活動を継続させるためにどのような力が必要かと、いろいろ我々が話し合ったところ、やはりボランティアがクロスパルに来るときの足です。自動車、自転車、徒歩などいろいろあ

第3 2期新潟市社会教育委員会議

りますが、足代と我々は言っているのですが、繰り返してボランティア活動をするためには、やはり足代が必要ではないかといったことや、新しいことをやる場合に調査・研究費も必要ではないかと、そのようなことをこの10年間の活動の中で感じております。

今後の活動の進め方については、10年間で積み上げて、楽しくするポイントとして五つあるのですけれども、一つはみんなでおしゃべり、くつろげる居場所。これは2階のボランティアスタッフルームが非常に有効です。二つ目は一人でできないこともみんなでやればできるということです。失敗することもあります、みんなでやれば失敗も怖くないということで、みんなでやろうと思っています。3番目、だめでもともとやってみるということです。これは特に大切なことかなと思っています。いろいろな意見が分かると、やめようという意見になるのですけれども、それよりもやってみようということです。4番目は仲間の声を聞く耳を持つと楽しみが倍増するということです。これはいろいろな意見が分かれたり、対立するときに、仲間の声を聞く心の扉を開けておくという意味で、そういうことを理解できたときにうまくいくケースが多いです。最後は、広報活動は継続するという事です。これも力ということで、広報活動を10年前からやっておりますけれども、こういうことを継続してやることによって、Lの会の活動が続いていくのではないかと私たちは思っております。

(雲尾議長)

それでは、続けて「あそぶんジャー」より長井様からお願いいたします。

(長 井)

よろしく申し上げます。あそぶんジャーの長井と申します。本当は代表の高橋が出る予定だったのですけれども、今日、急用ができてまして代わりに私が出てまいりました。

あそぶんジャーというのは、クロスパルができたときにボランティア養成講座を受講したメンバーが作った自主グループです。私たちのあそぶんジャーは、主に小学生とその父兄を対象に、ただ遊ぶのではなくて、昔遊びの企画を実施しています。いくつかの部門があるのですけれども、3月が親子クッキングといって、親子で小学生の子どもたちと一緒にいろいろなお料理の講習をやります。夏休みは遊びの広場というのがありまして、ここが一番あそぶんジャーの主になっているところなのですけれども、午前中は昔遊びです。昔は、凧揚げとかケンケンパとか、手芸とかやりましたけれども、そういったものを子どもたちに、今みたいにパソコンなどだけではなくて、自分の中から作り出す楽しみを分かってもらおうと思って教えています。これも、クロスパルができたときから、私たちのグループも市からバックアップしていただいて、現在も続けております。午前の部は昔遊びやゲームなどをやっています。午後の部になると、紙芝居と自分の体を使って動く楽しみ、朗読劇。私は朗読劇をやっているグループなのですけれども、世界も日本も、新潟も、民話などいろいろなものを取り入れて、子どもたちと一緒に、ときには子どもたちも中に取り入れながら、劇で自分たちの体から表現する楽しみを一緒に感じてもらうということをやったりしております。

この中でもう一つ、これは不定期なのですけれども、小学校から昔遊びをやってくださいというオファーがたくさんきます。今年もお正月にはあちこちの学校から来まして、みんなで手分けをしていろいろな昔遊びをやりました。大体夏休み、冬休み、不定期で金曜日とか、放課後にそういったオファーがきまして、昔遊びをしております。定期的にやるのはクッキングスクール。このクッキングスクールも、元プロのシェフだった人が中心になって、適当な料理ではなく、基本からきちんとしたお料理をいろいろやってくれます。試しに去年やったものを持ってきたのですけれども、親子クッキングというのは本格的なスパゲッティを二種類、それから蒸しパン、白菜と豚バラ肉のロール煮、お吸い物を、クロスパル5階の調理室を借りて親子で作りました。

遊びの広場もとてもたくさん親子が来てくださりまして、ゲームをしたり、手芸をやったりして、午後の部は朗読劇をやりました。朗読劇も去年は中国の昔話、十日町の松之山の民話を劇仕立てにして一緒にやりました。

子どもたちをできるだけ、普段、授業など教室の勉強だけではなくて、脳を活発にさせるためにも、違ったところを使う訓練と言ったらおかしいのですけれども、刺激を与えてあげるのは、私自身の経験からいってもとてもいいことではないかと思ひまして、私どもも、子どもたちにどんどんやらせて

第3 2期新潟市社会教育委員会議

おります。自分たちが劇をやるだけじゃなくて、必ず取り入れてやるようにしています。

私は急に言われたのもので、つたない話で申し訳ありませんが、以上になります。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

では、「パソコン指導ボランティア」より稲垣様にお願いいたします。

(稲垣)

私はスタッフの一人で稲垣と申します。よろしくをお願いいたします。

皆様のお手元に資料が届いていると思いますけれども、「パソコン若葉」ということで私たちは活動しております。市と一緒にやっているのですが、我々は運営のほうを担当しております。受講生の受け付けは市の職員がやるということで、仕事の分担をしております。現在、我々のスタッフは20名くらいです。第1木曜日と第3木曜日の10時から12時という2時間の枠で、一番最初はパソコンの機器の説明からです。初心者コースなので、ほとんどの方が電源ボタンが分からないということで電源ボタン、それからパソコンの中で覚えてほしい電源の切り方を教えています。電源の切り方を間違えると、中に入っている大事な資料がなくなるんだよという話をしまして、電源ボタン、電源を切るところを教えます。また、インターネットのところでは自己責任でおやりくださいという、一番大事なところを押さえながら進めています。

運営の話をしますと、看板を立てたり、プロジェクターの準備から設置作業、受付の準備やコート掛けなどもこちらでやります。そこのお部屋のすべてを我々がまかっています。職員の方は、受講者の受付と、最初のあいさつと注意点みたいなものもやったださいます。10時きっかりに職員があいさつを申し上げまして、その後、我々が受けるのですけれども、第1木曜と第3木曜でそれぞれ講師役が二人、残った者がスタッフをします。私も講師役をしております。第1と第3木曜ですので講師が4人必要なわけですが、それでも、「パソコン若葉」が始まった当初からやっているのは私だけで、あとの3人は二代目で、一生懸命頑張ってもらっております。

開催場所ですが、クロスパルの入口に入って左側を進んだ先で、図書館の前のパソコンルームです。パソコンは14台あります。14台あるということは、お客さんを14人受け入れることができるということなので、ところがその日によってはたった1人。スタッフが山ほどということがあるので、そういうときは前もって職員の方が、今日はみんな休んでいいよという連絡をくれます。そういうこともありますし、逆に今度はスタッフが足りないという日もあります。

課題と言いますと、やはり人数が足りないということです。講師もときどき替わったりすると面白いのですが、なかなか手をお挙げにならないということで、私がまだやっております。悩みと言えば悩み、課題と言えば課題です。

私たちのパソコン若葉は初心者用ですので、毎回同じものをやります。飽きてしまったほどお分かりになった方は、次のステップということで「まなびイの森」という講座に進んでもらいます。これは指導するスタッフの数が減りまして、基本的には自己勉強です。自分でやって、忘れたところは手を挙げてスタッフに聞くというシステムになっております。もう一つ、ここからまたその上ということで、ここでは物足りないということになりますと、今度は自主グループの「パソコンをさわろう会」というのが曜日を变えて、別のボランティアさんが替わってやっているようです。

せっかく資料持ってきましたので、こちらをご覧ください。これは昨年の秋の文化祭で展示したものです。パソコン若葉にいらっしゃる方の年代ですが、80歳くらいの高齢の方が来ていらっしゃいます。下のほうは40代くらいです。子育てが終わってこれから仕事をするという40代の若い方と、高齢の方とほとんど同じくらいのパーセンテージです。一番多いのは60代、70代。ここの45パーセントの中には、パソコンの勉強もいいのだけれども人と交わりたいという方もいらっしゃいます。来られますと、こんにちは、またねという会話も出ますので、きっとふれあいを楽しんでいらっしゃるのだと思います。「80歳なんかだれもいないと思ったけれども、けっこう多いんだね。ほっとしました。」というアンケートがあります。毎回、アンケートをいただきますので、そこでどんなふうにして今後やっていったらいいのかとか、第5木曜日にスタッフの勉強会などをして、我々も少し力をつ

けてやっております。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

では、生涯学習相談ボランティア「ひだまり」より、代表の三宮様お願いいたします。

(三 宮)

生涯学習相談ボランティアひだまりの三宮と申します。よろしくをお願いいたします。不慣れでございますので、お聞き苦しいとは思いますが、お耳を拝借したいと思います。

生涯学習相談「ひだまり」の活動内容についてご紹介いたします。「ひだまり」は、市民が生涯学習をするための情報提供にかかわる内容を面談でお答えしております。活動内容といたしまして、毎週火曜日と木曜日の10時から12時までと、水曜日の午後1時30分から3時30分までの週3日間をそれぞれ二人体制で、エントランスに相談窓口を設けて開催しています。

今年1月時点で24名のメンバーが活動しておりまして、2月7日から3月14日に新たに相談員養成講座を開催して、募集中でございます。新年度からこの養成講座を受講された方の中から新メンバーが加わる予定となっております。「ひだまり」のメンバーの活動としましては、相談窓口当番を月1回から2回の活動と、それから情報班、広報班、研修班のいずれかの班に属して活動を行います。

班の活動の内容としましては、広報班は月1回、第2木曜日の午後1時30分から3時30分まで「ひだまり」の広報版、ポスター、チラシ等、館内のパネル掲示等の広報活動を行っております。研修班は月1回、第2木曜日の午後1時30分から3時30分まで、「ひだまり」活動メンバーのスキルアップのため研修会の立案・実施をいたしております。情報班は月1回、第3火曜日の午後1時30分から3時30分まで、情報収集のためメンバーの集めてきたチラシ等を整理・ファイリングをして、皆さんが見られるように窓口にファイルを設置しております。それから「ひだまり」の定例会としましては、月1回、第2水曜日の午前10時から12時まで、活動メンバーの活動内容の報告・連絡、生涯学習センターの職員を含めた相互の情報交換を兼ねて、その場で定例会を開催しております。

抱えている問題・悩みとしましては、一般的に生涯学習という言葉自体がよく知られていない、理解されていない面があるので、その相談窓口がなおさら知られていないというのが一般的ではないかなと思います。強いて言えば、利用者が少ないということなのです。少ないことはいいことかどうかという問題もあると思いますが、活動を続けていると、こんなに少ないのだったらという気持ちになってくることも多々あります。

これからはネット検索などとの違いをいかに出していくか。面談してお話することによって相談者の方が安心するが、かと言って一々煩わしい、ネットで検索したほうが早いという方向にいつているので、その辺のすみ分けをどうしていくのか。それに対する対応をどうしていくかということが今後出てくると思います。

在宅高齢者の知識ですが、先ほど「あそぶんジャー」でも昔の遊びが伝えられていないというお話がありましたけれども、これをいかに引き出して後世に伝えていけるのかということ、我々がおこがましいかもしれませんが、そのお手伝いができればなと思っています。どうしたらできるのかなというところが今後の課題になるのではないかなと思っています。

今後の活動方針、計画、予定、イベント等については、生涯学習相談窓口「ひだまり」は全国版なのですけれども、ボランティアが主体で担って活動しているものは、全国で新潟市のこのクロスパルだけなのです。私も当初入ったときに、県内の各窓口や、全国で一番利用されている横浜の相談窓口についても調べに行きましたが、横浜はNPOに委託されておりまして、県内の窓口は職員が対応しています。ボランティアが主体になっているのは全国で新潟市しかありませんから、これを何とか絶やさずに活動していければ私の一つの夢でもあるし、何とかやっていきたいと思って皆と頑張っております。

相談窓口の出前、メディアの活動等、周知活動も今後も行っていきたいと思っています。個人的な夢としまして、今までの問題を出前とかというもので、こちらから今まで出て行ったのですけれども、逆に各公民館や、各区でもいいのですけれども、そこに拠点として「ひだまり」の窓口が設けられ

第3 2期新潟市社会教育委員会議

ればなというのが私の夢でございます。ありがとうございました。

(雲尾議長)

ありがとうございました。

今ほどご説明いたしました4団体について、ご質問等ありましたら皆さんお願いいたします。

(小川委員)

各会の皆様からお話しいただきまして、ありがとうございました。少し質問をさせてください。皆さんは長いところで10年くらいの間、活動をされているわけですが、会ができた経緯はいろいろお話があったようですけれども、皆様がこのボランティアを始められるきっかけみたいなものがありましたら、お話しできる範囲で聞かせていただけたらと思うのですが、

(三 宮)

私は62歳で定年になりました。1年くらい、のんびりしてゴロゴロしていたと思っていたのですが、ちょうど会社の場合は誕生日が定年なものですから、私はたまたま12月生まれなので年明け早々、どうしていいかということで、結局先ほどご紹介しましたように「ひだまり」の養成講座を、私が勘違いしましてボランティアの養成講座だと思っていて、疑いもなく受けてしまったのです。それをきっかけに、活動の中でいろいろな情報をチラシ等から集めたり、集まってきた情報を見ながら自分でそれを受講したり参加したりして、非常にやりがいがあることが、そこにつながっているのではないかなと思います。これをずっと続けていきたいし、広めていきたいと思っています。

(土 屋)

Lの会の土屋と申します。私はやはり同じように一介のサラリーマンでございました。ちょうど退職して何をしようかなというときに、高齢者大学がユニゾンプラザであるということが分かりまして、試験がなければ入ってもいいなということで入らせていただきました。1年間は教養課程で、2年目から専門というわけではないのですが、それよりも高度な内容で、1年目は無我夢中でおりましたけれども、2年目からやっと人の顔が分かるような感じでおりまして、実はそれも終わって3年目になるとパソコンの系統と、それから福祉の関係にコースが分かれていて、それは当然希望者なのですけれども、福祉に入らせていただきました。そこで1年間やらせていただきまして、そのあとにこれは15年くらい前の話なので記憶が定かではないのですが、オアシスという冊子があるので、要するにボランティアを支援する対象の内容ということで申し込んだりしていたのですが、ちょうどそのときにLの会の前身であります、クロスパルができるときにクロスパルで活動できるボランティア募集という内容がありまして、それに応募させてもらったということがきっかけでございます。そこで約1年半くらいいろいろな先生の講座を受けまして、そこを卒業した人間は、先ほどお話ししましたけれども、大勢の方が受講をされて、Lの会を立ち上げようというときに、もう四、五十人にはいたと思うのですが、Lの会をつくらうということでつくらせてもらって、現在に至っているというところでございます。

(長 井)

二十数年前に市役所で、まだここができないときに生涯学習パートナーというシステムがありまして、そこで新潟市の指導的な立場にいる人たちが30人くらい、いろいろな技術を持っている方が集まって生涯学習パートナーとして新潟市のボランティア活動を始めて、それが2年前に皆さんみんな年齢を重ねましたので、生涯学習パートナーという市役所の下部団体だったので、それが無くなりまして、私は「あそぶんジャー」のほうと、ほかに二つ、三つ関係していますけれども、そちらに入ったということになりました。

(稲 垣)

私は男性と違ってボランティアは若い頃から入っておりました。だからいろいろなものをやっておりましたけれども、新しい建物ができたところで養成をされて、そこで活動ができるボランティアもいいなということで学びました。一番最初にお話ししましたけれども、このときに4人集まったのですが、それもなかなか集まらないのです。私も資料はあるけれども、これをお客様にどう説明すればいいのかということで皆さんとても困りました。私なりに4人分の原稿をつくりまして、それをこん

第3 2期新潟市社会教育委員会議

なふうに貼って説明しました。ところがそれが2年、3年とやっていきますと、今度は自分の言葉でしゃべることができるので、誰かが書いた原稿ではなくて、自分の言葉でもいいよということで、どんどん自分の言葉ができていきまして、今は我々が書いたものは基本となったかどうか分かりませんが、そんなふうにして進めております。ボランティアはこのほかに中央図書館でもやっておりますし、いろいろなところでやっております。ボランティア万歳です。ありがとうございます。

(岩間)

岩間です。ひとことだけきっかけを言いますと、生涯学習センターができる前に「市長の東区トーク」というものがありまして、そのお話を聞いて面白いなということで、定年になったときに三宮さんと同じように私も聞いていいなと思いました。そのときは歴史に非常に興味を持っていましたので、生きがいつくりには歴史を第二の人生に勉強しようとして今でも思っているのですが、それがどうも市の誘導に乗ってしまったというか、ボランティアと生涯学習がセットになっていたのです。あれ、おかしいなと思っていましたが、今は結果としてボランティアが楽しいのですけれども。そのときに不思議に思ったのは子ども相手に、どうして生涯学習とボランティアをやるのだろうかという単純な疑問でした。生涯学習は自分のためがいいのではないかと、余裕ができたらみんなのためにと考えたものですから、クロスパルで子ども相手というのはどうしてなのだろうか今でも不思議に思っているところなのですけれども、そんなことで楽しくやらせていただいております。

(雲尾議長)

そのほか、何かございますでしょうか。

ないようでございますので、事例研究(1)「生涯学習センターボランティアとの懇談」を終了させていただきます。この懇談の内容につきましては、事務局より資料1-1に集約していただきたいと思っております。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。ここでボランティアの皆さんにはご退席をいただくこととなります。誠にありがとうございました。

5. その他

(雲尾議長)

事務局から公民館月報「ひろば」欄の執筆についての依頼があるということですので、お願いいたします。

(生涯学習センター係長)

こちらは新潟県の公民館連合会が毎月発行している公民館月報への記事の掲載依頼についてです。参考資料につきましては、一番最後に白黒でA4両面で付けておりますけれども、実際は白黒ではなく表紙がカラーで中身が白黒になっておりまして、A4サイズで8ページの冊子です。今回、こちらの添付資料にあります「ひろば」という欄への掲載依頼がありました。

こちらは公民館運営審議会の委員または社会教育委員の方のスペースになっておりますので、新潟市にも定期的に依頼があるのですが、公民館運営審議委員の方々が執筆されることが多く、今回ぜひ社会教育委員に書いていただけないかという依頼でございます。

内容としたしましては、必ずしも社会教育委員会議の活動の様子にはこだわらないようで、個人的な感想・意見・随筆・トピックスなどでも結構です。文字数としましては455字程度となり、ワードもしくは手書きでの提出で、締め切りが2月10日となっております。また、提出の際には顔写真1枚をご提出いただきたいと思います。

なお、こちらのバックナンバーは、新潟県公民館連合会のホームページより閲覧可能となっておりますのでご参考にしていただけたらと思います。ぜひ、どなたかご執筆いただけたらと思ひまして、事務局よりお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(雲尾議長)

ただいま説明がありました公民館月報「ひろば」欄にご執筆いただく方の選出を行いますが、どなたかいかががでしょうか。

第32期新潟市社会教育委員会議

(横坂委員)

私は運営審議委員なので、私以外の方でお願いします。変わりばえしないと申し訳ないので。

(雲尾議長)

なるべく社会教育委員にさせていただきたいということです。何を書いてもいいということです、どなたでもできるということです。いかがでしょうか。

特にご意見がないようでしたら、事務局から個別に依頼していただくということで、抽選等でも何らかの方法でご依頼がいきますので、その場合には快くお引き受けいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

ほかに、何かございますでしょうか。

(横坂委員)

全然違うことなのですけれども、プリントに関することなのですけれども、資料1-1で右手上の「課題」の3行目「お話の時間に来てくださる子どもたちの」という文章があるのですが、「来てくださる子どもたち」というのは、「来る子どもたち」なのか「来てくださる子どもたち」なのか。何か私自身は違和感を感じたので分からないのですけれども。

(雲尾議長)

言われた言葉をそのまま起こしたのですよね。それでは、もう少し読みやすい文に改編するというごとうお願いいたします。

そのほか、ございますでしょうか。

教育委員との懇談につきましてのご依頼と、公民館月報の執筆のご依頼が行くと思いますので、その点につきまして再度よろしくお願いいたします。

以上で委員会を終わりますので、事務局にお返しいたします。

6. 閉会

(事務局)

長時間にわたるご審議、そして事例研究ありがとうございました。

次回は、3月21日(火)14時から会議を行います。会場については改めてご案内したいと思います。

以上をもちまして、第32期社会教育委員会議・第4回を終了いたします。皆様、大変ありがとうございました。